

資料①

第三回分科会資料

2005年1 2月

本日の分科会の目的と成果物

- 強み・弱み、機会・脅威を検討し、重点課題を抽出します
- 最初に強み・弱み、機会・脅威を検討し、それぞれを掛け合わせる事により重点課題を抽出します
- 今回は重点課題案の抽出を行い、次回の分科会においてデータ等を参考にした上で分科会としての重点課題を確定します（検討の進行度合いにより、本日は機会・脅威まで検討し、次回重点課題の抽出を行うことも考えられます。進行は柔軟に行います）

本日の分科会の2つの成果物

①内部·外部環境分析

内部環境	S(強み)	W(弱み)
外部環境	O(機会)	T(脅威)

②重点課題検討表

SWOT分析 重点課題検討表		内部資源分析	
		強み (Strength)	弱み (Weakness)
外部環境分析	機会 (Opportunities)	強みて機会を活かすための課題	弱みを強化して機会を逃さないための課題
外部環境分析	脅威 (Threats)	強みて脅威を克服するための課題	弱みを強化して 最悪の事態を招かないための課題

議事次第

- 分科会は合計2時間で行います
- 内部・外部環境分析、重点課題抽出の方法を解説し、その後グループで議論を行います

次第	時間	内容
1 開会	5分	①挨拶 ②出欠確認(出欠表の記入) ③前回の検討内容(議事録・整理表)の確認
2 検討の進め方	10分	①検討の進め方に関する説明 ②本日の目標確認
3 話し合い	90分	①強み・弱みの絞込み(5つ程度) ②機会・脅威の検討(10程度) ③重点課題の抽出(各タイプ3～5程度)
4 とりまとめ	10分	模造紙にとりまとめ
5 閉会	5分	①次回の内容 ②次回の日程 ③意見・質問 ④最終総括(会長)

強み・弱み検討手順 ①強み・弱みの整理

- 前回の分科会で検討した強み・弱みを確認し、具体化した上で重要なものを5つ程度に絞り込み、優先順位をつけます
- 結果を模造紙に整理します

<強み・弱み検討の手順>

Step1.

前回の強み・弱みの確認

Step2.

一般的な内容となっているものについては、具体化する

Step3.

強み・弱みを重要なものを5つ程度に絞り込み(優先順位をつける)

Step3.

模造紙に整理(具体的に記述する)

具体的に何が強み、弱みなのか

強み・弱み検討手順 ②機会・脅威の検討

- 機会・脅威をポストイットに一つ一つ項目別に記入し、相互の関係について検討します
- 最終的には模造紙にまとめます

<機会・脅威検討の手順>

Step1.

ポストイットに機会・脅威を一つずつ記入
(具体的に記入)

Step2.

記入された機会・脅威を一つずつ発表

Step3.

似通ったもの同士をグループ化

Step4.

それぞれの機会・脅威を当該分野との関連性を元に10程度にまとめます

Step5.

模造紙に整理
(具体的に記述する)

①..... ②..... ③..... ④..... ⑤.....	強み		弱み(問題)
● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	機会		脅威

重点課題検討手順 ①重点課題検討表の検討

- 重点課題は、強み・弱みを把握した上で、内外の環境条件(機会・脅威)を踏まえて検討します
- 強み・弱みの中で伸ばすべきもの・克服すべきものを検討します
- 重要な課題を5つ程度に絞り込みます
- 検討結果は重点課題検討シートに整理します

<重点課題抽出の手順>

模造紙上で検討

Step1.

機会・脅威を受けて
強み・弱みの中で伸ば
すべき項目・克服
すべき項目を検討す
る

Step2.

伸ばすべき強み・克
服すべき弱みを5つ
程度に絞り込む

Step3.

検討結果を重点課
題検討シートに整理
する

重点課題検討手順 ②出来上がりイメージ 教育分野の例

※この表は、参考事例であり、宇都宮市を分析したものではありません

内部資源分析			
SWOT分析 重点課題検討表		強み (Strength)	弱み (Weakness)
		教育活動に協力的な民間事業者の存在	外国語を話せる教員が少ない
		一定の質・量が確保された教育施設	ITリテラシーを教えられる教員が少ない
		教育系NPOが育ってきている	総合学習などマニュアルのない授業に対応できない教員が多い
機会 (Opportunities)		強みで機会を活かすための課題	弱みを強化して機会を逃さないための課題
国際化の進展により、英語を中心とした外国語能力が求められる			英語教育需要の高まりに対して、教員の英語力向上をはかる
自ら学び、自ら判断できるようになる教育が求められている		自ら学び、判断出来るようになるという教育ニーズに対して、民間事業者との連携によりディベートや意思決定・マネジメント等が学べる機会を提供する	
体験学習や総合学習ニーズの高まり		体験学習・総合学習ニーズの高まりに対し、NPOと連携することによって幅広い実践的な教育サービスを提供する	
情報社会化によるIT教育ニーズの高まり			ITリテラシー教育ニーズに対応するために、教員のITスキルを強化する
脅威 (Threats)		強みで脅威を克服するための課題	弱みを強化して最悪の事態を招かないための課題
英語による一般教科科目へのニーズの高まり			英語による一般科目教授需要に対応するために、英語圏から当該科目講師を招聘する
子どもの安全管理・確保		子どもの安全確保のために、NPOと協力して域内パトロールを行う	
実用性の薄い教育への批判		実用性の低い教育を回避するために、民間事業者と連携することにより、実践的な教育機会を提供する	
少子化による児童・学生数の減少		児童の減少に対して、小中高の教員数や施設を徐々に縮小する	
家庭の教育力の低下		家庭の教育力低下に対応するために、NPO等と連携し、地域全体で教育する体制を築く	

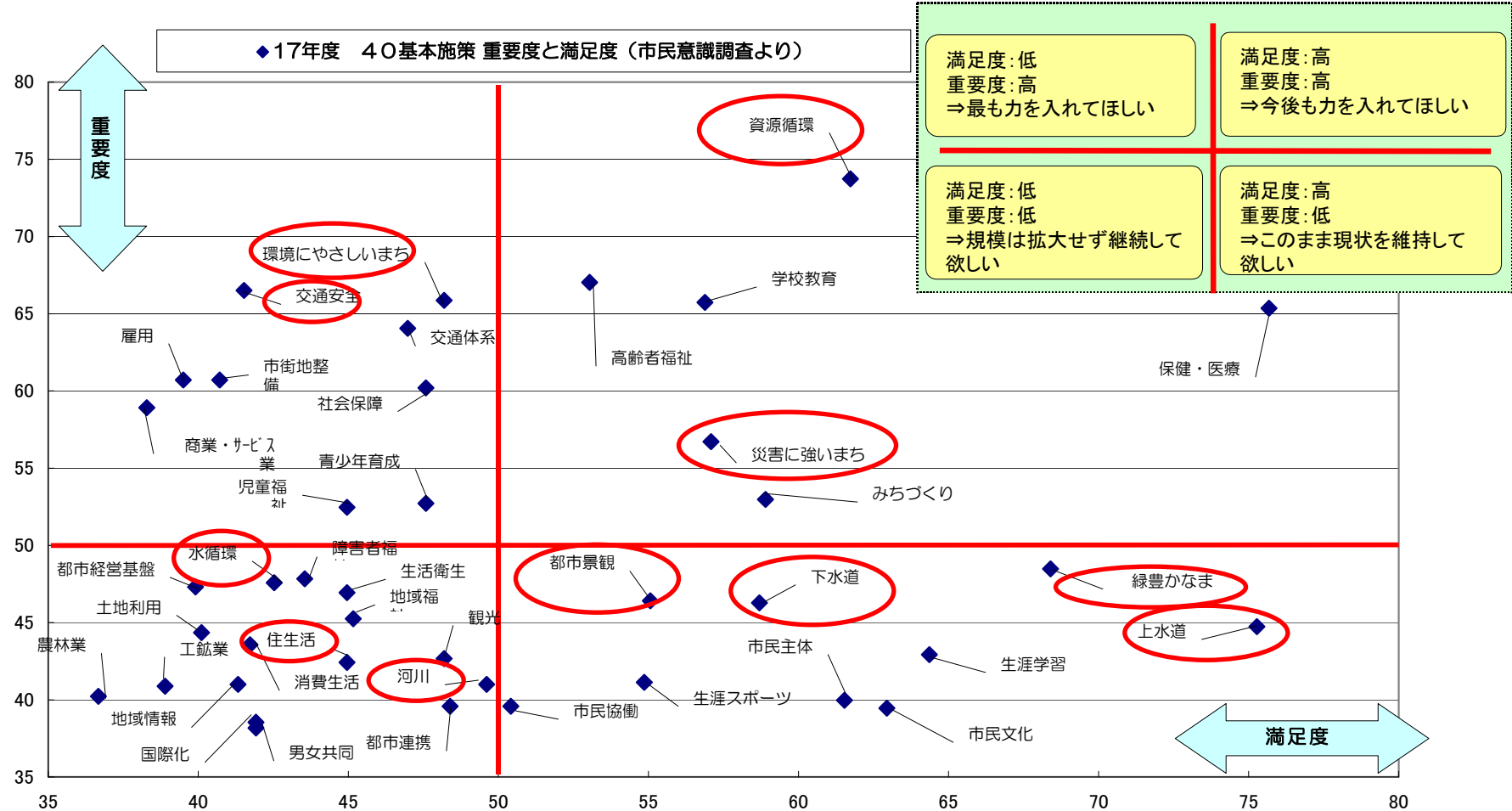
(確認)分科会における検討範囲

- 生活環境整備分野を題材に検討します
- 生活環境整備分野における強み・弱み、機会・脅威について検討し、重点課題を導き出します。
- 生活環境整備分野には、都市景観、防災、環境、生活衛星、ごみ、公園・緑地、住宅、道路、上下水道、河川、交通安全等が含まれます

テーマ・手順	内容
テーマ	生活環境整備分野における強み・弱み・機会・脅威 (都市景観、防災、環境、生活衛星、ごみ、公園・緑地、住宅、道路、上下水道、河川、交通安全等)

市民意識調査結果から(前回分科会資料再掲)

- 環境に配慮したまちづくり、交通安全、交通体系に対するニーズが強くなっている
- 災害に強いまちづくり、資源循環型まちづくりの取組は今後も力をいれて欲しいというニーズがある
- 住環境、河川整備については、見直し・効率化が必要と考えられている
- 都市景観、上下水道、緑豊かなまちづくりについては、相対的に優先度が低いと考えられている



調査概要) ●調査地域:宇都宮市全域 ●調査対象:満20歳～80歳の市民3,443人 ●調査期間:平成17年7月 ●調査項目:基本施策40項目の満足度・重要度

機会・脅威の例(生活環境整備)

機会・脅威	例
機会	● 循環型社会への移行 ● LRT導入による美しい街づくりへの機運の高まり
脅威	● 公共施設の維持コストの増大 ● 社会不安の拡大